
主要な個別事業の 取組状況

目次

事業名	ページ
分野1 子ども：学習支援推進事業	1
分野2 福祉：子どもの学習支援事業	4
分野3 生活：子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業	6
：緑と憩い再生事業	8
分野4 産業：「みやぎの台所・しおがま」推進事業	10
分野5 交流：観光プロモーション事業	12
分野6 文化：小中学校アートプロジェクト事業	14
分野7 協働：新婚さんいらっしゃい事業	16
分野8 浦戸諸島：浦戸再生プロジェクト推進事業	18

「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 1)

分野	1 子ども	まちづくりの目標	子どもたちの笑い声があふれるまち
		まちづくりの方向性	～ 健やかに育つ・育てる環境づくり ～

事業名	学習支援推進事業	担当部・課	教育部 学校教育課
-----	----------	-------	--------------

施策体系	施策の柱	(第2節) 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実	
	施策名	1	個性を生かす学びや協同的な学びの充実

事業の概要	取組の背景	これからの学校には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。		
	趣旨・目的	すべての子どもたちが「できる・わかる」喜びを味わえる「探究的な学び」「協同的な学び」を充実させるとともに、幼保小連携及び小中連携を進め、様々な交流活動を実施する。		
	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの共同体」による授業づくり ・授業力向上研修会・標準学力調査・Q-U調査 ・児童生徒間交流・教師間交流 ・アプローチ・スタートカリキュラム・相互参観・巡回訪問 	事業費	(千円) 14,877
	令和5年度の取組方針・目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を軸に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ・小中の連携及び幼保小の連携を積極的に進める。 ・学級満足度調査 (Q-U) を活用し、学級満足群を増やす。 		
	これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師研修会開催数：13回 ・市教委訪問数：29回 ・他校研修会参加者数：268名 ・研究授業実践者数：211名 (100%) ・ワンデー研修 (各校3名)：28名 (93%) ・幼保巡回訪問：114回 ・幼保相互参観者数：71人 ・学級満足度調査 (Q-U)：小60.1・中59.7 (全国値：小43・中41) 		
課題	コロナ禍のため、計画を大幅に修正した上での実践となった。 授業における「学び合い」や小中学校間や幼保小間の交流活動も限定的なものとなった。			
令和5年度以降の展開の方向性 (改善方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究」と「協同」の学びの大切さを再認識し、授業改善に取り組んでいく。 ・コロナ禍の制限解除を受け、小中学校間及び幼保小間の生徒、児童、園児の交流の場を少しずつ復活させていきたい。 			
関連する成果指標	「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合 ①小学校 国語：91.3% (89.8%) 算数：86.0% (84.0%) ②中学校 国語：91.7% (89.9%) 数学：88.6% (87.0%) 令和4年度宮城県児童生徒学習意識等調査 ※ () 内は仙台市を除いた県平均	SDGs	 4.質の高い教育をみんなに	
未来創生プロジェクト	2.よるこび実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	—	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	—			

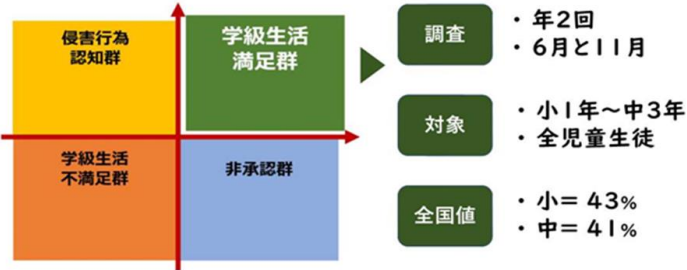


学習支援推進事業

学習支援推進事業		教育部 学校教育課	
学力向上 マネジメント	調査	標準学力調査	・小1年から中3年対象 ・算数・数学のみ年2回（4月・12月）
		学級満足度調査 （Q-U）	・全児童生徒対象 ・年2回（6月・11月）
	授業改善	「学びの共同体」 による授業づくり	・ペアや4人グループによる 協同的な学び
		授業力向上研修会	・各校年1回ずつ、計11回実施 ・他校での研修会への参加呼びかけ
小中連携	児童生徒間交流	行事交流	・運動会、体育祭等への参加 ・部活動、授業体験
		合同授業	・合同授業「中学校について知ろう」
	教職員間交流	乗り入れ授業 （小学校英語）	・中学校教員が小学校へ乗り入れ、 小5・6年の英語を指導する。
		ワンデー研修 （異校種体験研修）	・小学校教員が中学校で、 中学校教員が小学校で1日体験
幼保小連携	アプローチ・スタート カリキュラムの活用	アプローチ （年長児・5歳児）	・「生活の接続」と「学びの接続」を 滑らかに行えるようにする。
		スタート （小1年生）	
		ひらがな・すうじ ・できるかな？	・就学時健診の際に配布
	幼保小の 相互参観	幼保の小学校訪問	・卒園児の様子を参観し、 小担任と情報交換
		小学校の幼保訪問	・入学予定児（年長児・5歳児）の 様子を参観
スーパーバイザーの巡回訪問		・小学校と幼稚園・保育所（園）との パイプ役及び指導・助言	

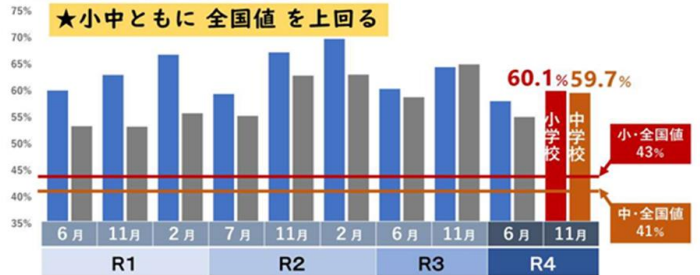
学力向上マネジメント ▶ 学級満足度調査(Q-U)

学級生活満足群の推移 (クラス平均値)

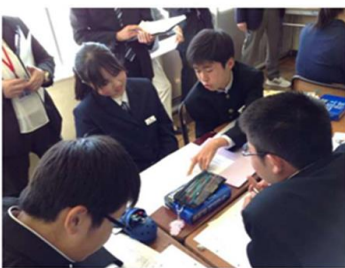


学力向上マネジメント ▶ 学級満足度調査(Q-U)

学級生活満足群の推移 (クラス平均値)



学力向上マネジメント ▶ 「学びの共同体」による授業づくり



- ①周りの人に分からないところを教えてください。
- ②一斉だと恥ずかしくて発表できないけれどグループだと発表できる。
- ③男女の仲も良くなる。

学力向上マネジメント ▶ 授業力向上研修会



- 【授業リフレクション】
- 教師も4人グループで学び合う
 - 子どもの学びの姿を見取り 学びの具体を語り合う

小中連携 ▶ 児童生徒間交流

コロナ禍でも Google Meetで交流 行事 中学校について知ろう 活動 中1・小6交流授業



小中連携 ▶ 教職員間交流

乗り入れ授業



小学校英語

ワンデー研修



丸1日の研修

幼保小連携 ▶ アプローチ・スタートカリキュラム

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

ひらがな・すうじ・できるかな? (五十音表)

幼保小連携 ▶ 幼保の相互参観

幼保 ▶ 小学校参観

(6月～7月)

- ・卒園児の様子を参観
- ・スーパーバイザーの巡回訪問に合わせて実施
- ・午後1時半頃から1時間程度 (終了後 情報交換)

小学校 ▶ 幼保参観

(9月～11月)

- ・入学予定児 (年長児・5歳児) の様子参観
- ・幼保が入学予定の小学校に訪問を要請 (SVが集約)
- ・小学校と日程調整 ▶ 実施

「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 2)

分野	2 福祉	まちづくりの目標	みんなが生き生きしているまち
		まちづくりの方向性	～健康で安心して暮らせる地域づくり～

事業名	子どもの学習支援事業	担当部・課	福祉子ども未来部 生活福祉課
-----	------------	-------	-------------------

施策体系	施策の柱	(第1節) みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実		
	施策名	3	生活困窮者の自立と社会参加に向けた支援の充実	

事業の概要	取組の背景	本市の生活保護受給率は東日本大震災時がピークであったが、震災関係の給付金や支援制度により震災後は減少。しかし、震災から10年を経過すると各支援制度が終了し、さらに、令和2年度からは新型コロナウィルス感染症による影響で生活困窮世帯が増加していることから、今後も保護率は年々増加すると想定される。		
	趣旨・目的	生活困窮世帯における生活困窮状態の世代間継続（貧困の連鎖）を防止するため、生活困窮世帯の子どもの学習支援をはじめ、日常的な生活習慣、仲間と活動ができる居場所づくり、進学に関する支援を行いながら生活困窮世帯の減少を図るもの。		
	実施概要	市内に住所を有する生活保護受給世帯、児童扶養手当受給世帯、就学援助受給世帯を対象 ・対象 中学1から高校3年までの生徒及びその保護者 ・参加費 無料	事業費	(千円) 7,196
	令和5年度の取組方針・目標値	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度も中学3年生を対象とした、高校受験直前対策授業の実施 学習の習慣化、学力の向上、進学（進路相談や奨学制度）に関する支援 高校受験の合格率100%、高校進学者の中途退学者0名 		
これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度 事業開始 令和2年度 タブレットによる映像授業の実施（新型コロナウィルスの感染により） 令和3年度 オンライン学習の実施（新型コロナウィルスの感染により） 令和4年度 中学3年生を対象にした高校受験直前対策授業の実施、定員の拡大 参加人数、H29 7名、H30 22名、R1 23名、R2 8名、R3 23名、R4 41名 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業への参加人数が増加しており、会場の狭さが課題となっている。 生活保護受給世帯からの参加者が非常に少ない。 			
令和5年度以降の展開の方向性（改善方法）	<ul style="list-style-type: none"> 事業の参加数を増やすことができるように、現在より広い会場について検討する必要がある。 生活保護受給者の事業対象者については、担当ケースワーカーより事業の目的や必要性について説明をしながら参加を促す。 			
関連する成果指標	－	SDGs	－	
未来創生プロジェクト	1.住みよさ実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	－	
	－		－	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	－			



1. 生活保護の状況

本市の生活保護の状況は、東日本大震災発生時がピークであったが、それ以後は、復興需要が増加したことにより、有効求人倍率が大きく改善されたことや、被災者に対する給付金や各種支援制度により一時的に生活保護受給者が減少。しかしながら平成28年度以降、復興需要の減少や、震災関連給付金等による貯えの消失などにより再び増加傾向に転じている。令和元年度以降は、さらに新型コロナウイルスの感染拡大による稼働時間の短縮や雇止め、倒産など収入が減少し生活が困窮する世帯が急増し、相談・申請件数も増加している状況。

2. 生活困窮相談及び生活保護申請件数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
窓口相談	127	108	113	186	119	196
保護申請	78	89	73	110	123	98
保護開始	64	84	64	110	108	87
平均世帯数	496	514	536	546	585	608
平均人員数	675	716	697	686	729	746
平均保護率	12.32‰	13.17‰	12.91‰	12.80‰	13.72‰	14.18‰

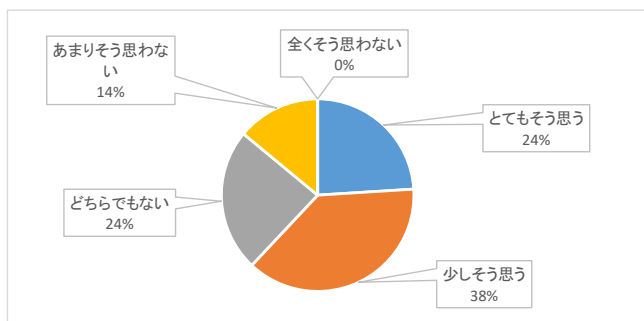
3. これまでの成果と参加生徒のアンケート結果

■成果

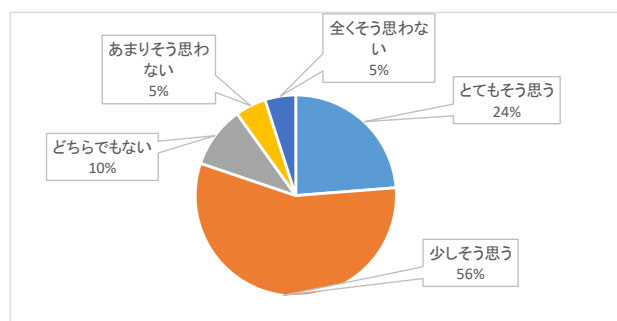
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
高校進学者	4名	12名	7名	2名	17名	26名
高校進学率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
高校中途退学	0名	0名	0名	0名	0名	0名
取組み			家庭訪問による対応	タブレットによる映像授業	オンライン学習の実施	高校受験直前対策授業(中3、3か月)

■参加生徒のアンケート結果

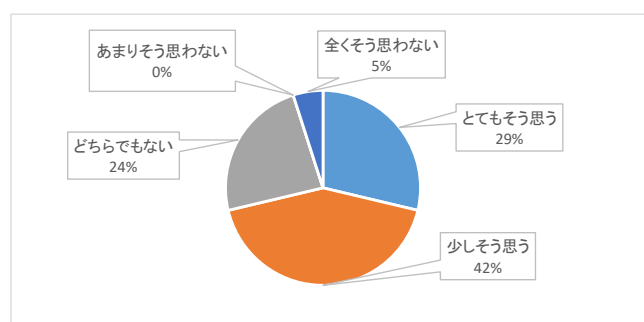
1. 成績が上がってきた。



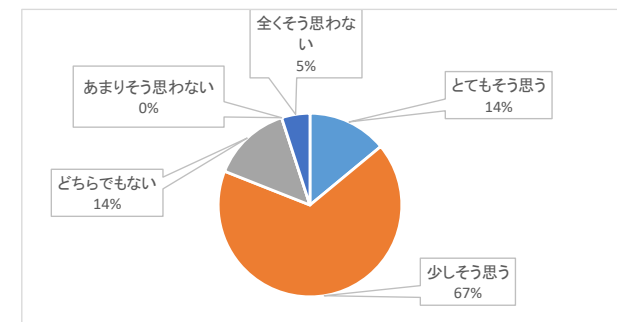
2. 勉強へのやる気や興味が出てきた。



3. 集中力がついてきた。



4. 勉強のやり方が分かってきた。



「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 3)

分野	3 生活	まちづくりの目標	快適に住み続けられるまち
		まちづくりの方向性	～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

事業名	子育て・三世帯同居近居住宅取得支援事業	担当部・課	総務部 政策課
-----	---------------------	-------	------------

施策体系	施策の柱	(第2節) コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成	
	施策名	1	地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境の整備推進

事業の概要	取組の背景	本市の人口は平成7年の63,566人をピークに減少しており、令和5年6月末には52,181人まで落ち込んでいる。高齢割合が人口の34%を占めており、少子高齢化進む中、人口推移を見ると自然動態での死亡が多く、社会動態での転出、転入については、それほど減少しておらず、若干ではあるが微増となっている。		
	趣旨・目的	若い世代の定住と地域活力の維持を図るもの		
	実施概要	市内へ転入する子育て世帯や三世帯同居・近居世帯への住宅取得を支援するもの 対象者：子育て世帯又は三世帯同居・近居世帯 補助金額：①基礎額 住宅取得費の3%相当額で上限50万円 ②加算額 子ども2人世帯は5万円、3人以上世帯は15万円を加算	事業費	(千円) 24,089
	令和5年度の取組方針・目標値	令和5年度は年齢要件（40歳→42歳）や申請期間を拡充し、定住の推進を図る。 令和5年度の申請件数：50件		
	これまでの取組状況	平成30年度：事業開始 平成30年度～令和4年度：住宅情報誌等への掲載、住宅メーカー等へチラシ配布など 令和4年度：補助金額を拡充（最大50万円→65万円）、市HPに「塩竈市移住定住・結婚・子育て支援総合ポータルサイト」を創設		
課題	・制度のブラッシュアップや制度の周知を行ってはいるが、申請件数が伸び悩んでいる。			
令和5年度以降の展開の方向性（改善方法）	・課題解決に向けて、現制度のブラッシュアップだけでなく、他課とも連携しながら結婚・妊娠・出産・子育てなどの各ライフステージに合わせた横断的な各種施策の拡充や周知方法を検討する必要がある。			
関連する成果指標	「魅力ある都市空間の形成」の満足度	SDGs	 11.住み続けられるまちづくりを	
未来創生プロジェクト	1.住みよさ実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	・新婚さんいらっしやい事業	
	4.にぎわい実感プロジェクト		・こんにちは赤ちゃん事業	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	 分野3：まちの空き家を生かす暮らし			

分野3：生活
快適に
住み続けられるまち



子育て・三世帯同居近居 住宅取得支援事業

【事業目的】

本事業は、市内へ転入する子育て世帯や三世帯同居・近居世帯の住宅取得を支援し、定住の促進と地域活性化を図るため、平成30年7月に創設。若い子育て世帯の移住とともに、三世帯の同居や近居を促進することで、子育てや介護支援などを通じ世代間交流が生まれ、地域活力が向上することを目的とするもの。

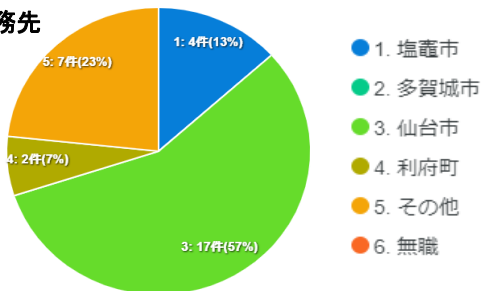
【令和4年度交付状況】

世帯種別	交付決定	転入人口	従前居住地の状況
子育て世帯	43件	157人	仙台市18件、多賀城市13件、利府町8件、名取市1件、松島町1件、大和町1件、加美町1件、秋田県1件、埼玉県1件
三世帯同居近居世帯	2件	8人	
合計	45件	165人	

【令和4年度アンケート調査(抜粋)】

- ・調査対象者数：45件
- ・回答数(率)：30件(66.7%)

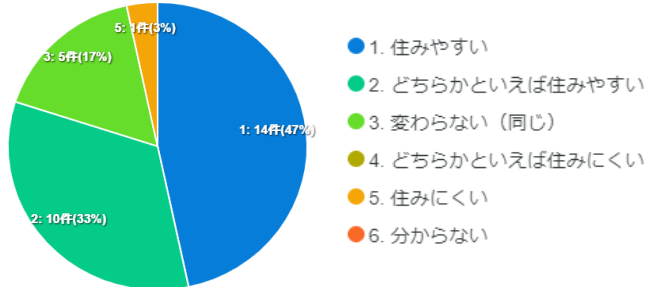
夫の勤務先



夫の勤務先

1仙台市が17件(57%)と大半を占めるように、職住分離が仙塩地区の住宅市場の動向と思われる。

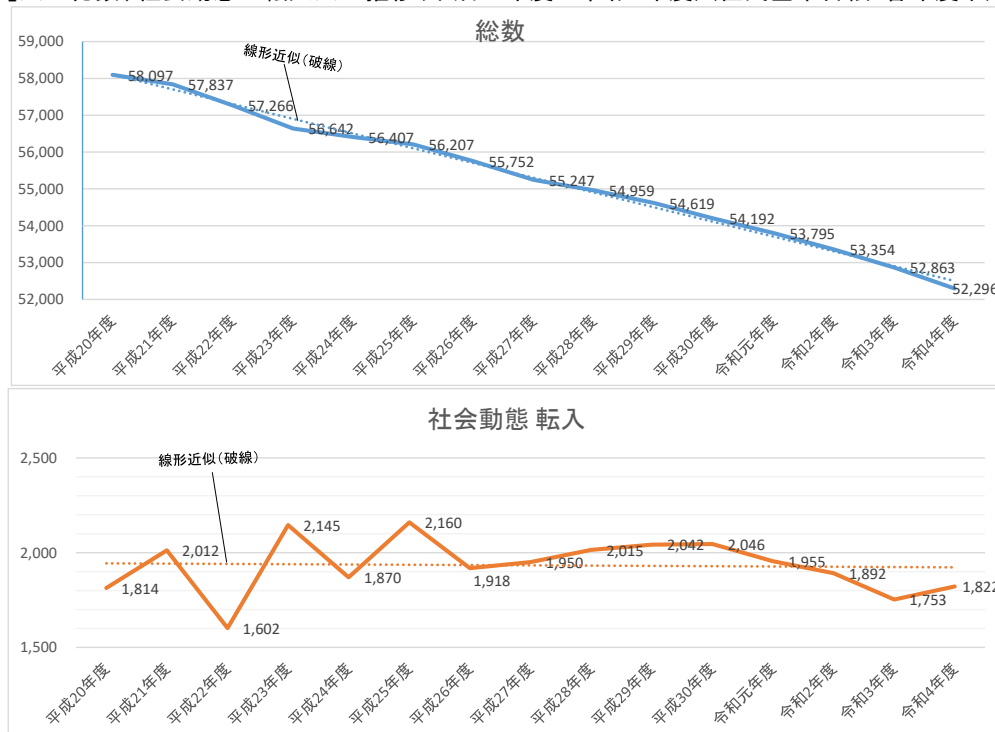
お住まいの地域の住みやすさ



お住まいの地域の住みやすさ

1や2の比較的住みやすいとの回答をいただいた主な理由として、「静かで自然豊か」、「スーパー・ホームセンター・銀行が近い」、「公共施設や交通機関が近くにある」などの意見が寄せられた。

【人口総数、社会動態の転入人口推移(平成20年度～令和4年度)(住民基本台帳・各年度末)[単位:人]



人口総数、社会動態の 転入人口推移(平成20年度 ～令和4年度)

総数は平成20年度の58,097人から令和4年度の52,296人へ14年間で5,801人減少した。社会動態の転入人口は、平成22年度から平成25年度にかけての震災後の上下動を経て、平成26年度から平成30年度以降は約2,000人～1,750人の水準を推移している。平成30年度からの本事業による顕著な反応は示されていないが、水準維持に資したものと考えられる。



「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 4)

分野	3	生活	まちづくりの目標	快適に住み続けられるまち
			まちづくりの方向性	～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

事業名	緑と憩い再生事業	担当部・課	産業建設部 土木課
-----	----------	-------	--------------

施策体系	施策の柱	(第2節) コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成		
	施策名	2	気軽に集える憩いの空間の創出	

事業の概要	取組の背景	<p>塩竈市の公園は、設置から30年以上が経過している公園が7割近くを占めており、施設の老朽化や人口減少に伴い、利用者数が減少している。</p> <p>特に、本市唯一の総合公園である伊保石公園については、開園当初は1日に約3000人が訪れるなど、市民が自然と触れ合う場として幅広く使われていたが、現在は十分に公園の機能が活かされているとは言い難い状況となり、再整備の必要性が謳われるようになった。</p> <p>また、少子化や、子どもたちの余暇の過ごし方の変化に伴い、地域の公園の利用機会が少なくなったことにより、子どもたちと地域の関わりが希薄化している。</p>		
	趣旨・目的	<p>伊保石公園の機能・魅力を向上させ、利用者数の増加を図るもの。</p> <p>また、子どもたちの地域愛・郷土愛の醸成を図るもの。</p>		
	実施概要	<p>(伊保石公園再整備)</p> <p>市制施行100周年に向けて、「誰もが、いつでも、自由に憩える公園」の実現を目標に、伊保石公園の再整備を進めていく。</p> <p>(街区公園植樹事業)</p> <p>市内各小学校の学区内にある公園において、子どもたちによる植樹を行う。</p>	事業費	(千円) 323
	令和5年度の取組方針・目標値	<p>(伊保石公園再整備)</p> <p>公民連携の検討のため、民間企業を対象としたアンケートやサウンディング調査を実施する。</p> <p>令和4年度から取り組んでいる再整備基本計画を策定する。</p> <p>(街区公園植樹事業)</p> <p>実施校を増やすとともに、行政・学校・地域の連携を図る。</p>		
これまでの取組状況	<p>(伊保石公園再整備)</p> <p>令和3年度：市民アンケート及びワークショップの実施、再整備基本構想の策定</p> <p>令和4年度：公民連携の先進自治体視察(横浜市・千葉市)</p> <p>(街区公園植樹事業)</p> <p>令和3年度：第三小学校(中の島中央公園)</p> <p>令和4年度：第三小学校(中の島中央公園)・杉の入小学校(楓町北公園)</p>			
課題	<p>(伊保石公園再整備)</p> <p>公園再整備に係る長期的な財源確保が課題となっている。</p> <p>(街区公園植樹事業)</p> <p>地域に根ざした事業としていくための、事業の継続性や関係団体との連携が課題となっている。</p>			
令和5年度以降の展開の方向性(改善方法)	<p>(伊保石公園再整備)</p> <p>公園再整備に係る有利な財源の確保や、民間活力の導入について検討していく必要がある。</p> <p>(街区公園植樹事業)</p> <p>市内全小学校での実施を目標とする。(令和9年度)</p>			
関連する成果指標	伊保石公園の年間休日利用者数	SDGs	 11.住み続けられるまちづくりを	
未来創生プロジェクト	2.よるこび実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	—	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	 <p>分野3：海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし</p>			



1. 伊保石公園再整備事業

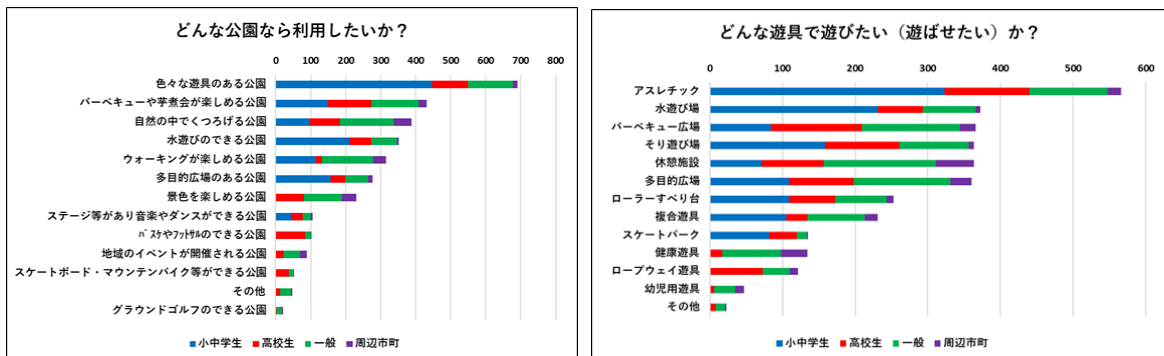
【事業概要】

市内唯一の総合公園である伊保石公園は、開園から30年以上が経過し、施設の老朽化等により利用者数の減少が進んでいることから、「誰もがいつでも自由に憩える公園」の実現を目標に、公園の再整備を進めていくもの。

【令和3年度市民アンケート】

- ・調査対象 ①一般 1,000名 ②市内小中学生 777名 ③塩釜高校 360名 ④近隣市町村(WEB) 100名
- ・回答数 ①一般 432名(43.2%) ②市内小中学生 724名(93.1%)③塩釜高校 345名(95.8%) ④近隣市町村(WEB) 100名(100%)

(伊保石公園の再整備イメージ)



- ・全世代を通じて、「色々な遊具のある公園」、「バーベキューや芋煮会が楽しめる公園」のニーズが高い。
- ・遊具については、特に「アスレチック」が小中学生を中心にニーズが高い。

【公民連携の先進自治体視察】

Park-PFIをはじめとした公園における公民連携の導入について検討していくため、先進自治体の管理運営について視察を実施した。(横浜市・千葉市)

2. 街区公園植樹事業

【事業概要】

市内の街区公園において、塩竈市の将来を担う子どもたち自らが植樹を行うことで、子どもたちの郷土愛や地域愛の醸成を目的として実施するもの。

【令和4年度実績】

- ・第三小学校 中の島中央公園 参加児童65人
- ・杉の入小学校 楓町北公園 参加児童84人

(第三小学校)



(杉の入小学校)



「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 5)

分野	4 産 業	まちづくりの目標	活気があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち
		まちづくりの方向性	～ 活力に満ちた産業づくり ～

事業名	「みやぎの台所・しおがま」推進事業	担当部・課	産業建設部 水産振興課
-----	-------------------	-------	----------------

施策体系	施策の柱	(第1節) 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造	
	施策名	2	水産品・水産加工品の流通拡大

事業の概要	取組の背景	近年、海洋環境変化等による漁業生産量が減少し、人口減少や高齢化による国内需要は縮小傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症の影響で流通の縮小や販売機会が喪失し、円安やエネルギー価格高騰による加工原料や外国人技能実習等の人手不足から本市水産業・水産加工業を取り巻く環境は厳しい状況となっている。		
	趣旨・目的	課題解決を図りながら、事業継続が可能となる「稼ぐ力」と「雇用力」を高め、魅力ある水産業・水産加工業への転換を目指す。		
	実施概要	水産業・水産加工業の活性化に向けた自主的な取り組みに補助金等を交付するもの ・みなと産直観光客等受入促進事業費補助金 2,500千円 ・通信販売促進事業費補助金 1,961千円 ・地域おこし協力隊運営業務委託事業等 1,941千円 ・水産・水産加工業就職助成金等 455千円 ほか	事業費	(千円) 8,883
	令和5年度の取組方針・目標値	「みやぎの台所・しおがま」の中核施設である仲卸市場でテナント誘致活動やイベント開催により本市特産品である水産品・水産加工品の魅力をPRし、売上向上を目指す。 また、コロナ禍による「巣ごもり需要」に対応するため、ECサイトを活用した通信販売事業により新たな顧客の獲得を図る。渡航制限による外国人技能実習生等の人手不足解消に向けた支援を行い、人材確保を目指す。		
	これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・みなと産直観光客等受入促進事業費補助金：イベントによる賑わい創出と家族連れなど新たな客層の掘り起こしにより、売上向上が図られた。 ・通信販売促進事業補助金：大手ECサイトと連携し、延べ20万通のメルマガ配信により、本市水産加工品のPRとともに新たな購買層獲得による消費拡大に結び付いた。(水産加工品応援海鮮BOX600セット販売) ・地域おこし協力隊運営業務委託事業等：新規出店者3者による場内水産物を活用したご当地メニューを提供により、消費喚起と新たな魅力創出が図られた。 ・水産・水産加工業就職助成金：市内水産・水産加工業者に助成金を交付し、従業員の定着が図られた。(助成実績：17社1団体、延べ91人の新規就労者) 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの収束により、人流・物流の回復が予想され、賑わいと魅力創出に向けて関係団体と連携した更なる取り組みが必要。 ・新たな販路開拓と商流の確立に向けて、輸出事業を含めた戦略的な物販PR事業を展開し、売上向上による「稼ぐ力」を高める。 ・外国人技能実習制度見直しを視野に、実習生に選ばれる受け入れ先として、受け入れ事業所と連携したサポート体制の構築が必要。 			
令和5年度以降の展開の方向性(改善方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市水産食材の知名度向上やイメージアップに向けた新たなブランドの検討 ・ふるさと納税返礼品を想定した商品開発とECサイトによる通信販売事業の拡充 ・売上向上や販路拡充に向けた輸出事業を含めた外販物販事業の強化 ・実習生等の安定的な受け入れ確保に向けた派遣元へのシティーセールの実施 			
関連する成果指標	-	SDGs	-	
未来創生プロジェクト	3.やりがい実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	-	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	-			

分野4：産業

活気があり、
誇りをもって
働いている人が
たくさんいるまち



「みやぎの台所・しおがま」推進事業

みなと産直観光客等受入促進事業費補助金

体験型イベントにより観光客をはじめ多くの来場者に本市特産品である水産品・水産加工品の魅力を発信し、【みやぎの台所・しおがま】認知度の向上と消費喚起と新たな客層の掘り起こしを図り、賑わい創出と消費拡大につながった。

事業概要

事業名称	開催場所	入込数
市場 DE BBQ	仲卸市場	350人
こどもチャレンジラボ	仲卸市場	720人
市場 de マルシェ	仲卸市場	3,500人
塩釜魚市場どっと祭	魚市場・仲卸市場	15,000人



塩釜魚市場どっと祭



通信販売促進事業費補助金

大手通販サイトにて『みなと塩釜旨いもん〜おいしおがま〜フェア』と題し、延べ20万通のメールマガジン配信により、【塩釜市水産加工”応援”海鮮BOX】を販売し、新たな購買層の獲得につながり、本事業を契機にECサイトを活用した通販事業への関心が高まっている。

販売実績

販売価格 5,780円(税・送料込み)
販売期間 2月1日～2月23日
販売数量 600セット

詰め合わせ内容(塩釜の名産10品)

- 笹かまぼこ和紙包装
- まぐろカツ
- 松島笹
- 鰹たたき
- 紅鮭切身
- あなご蒲焼
- 赤魚粕漬
- 籠サバ生ハム
- イワシフィレ醤油干し
- 炙りメダカ



塩釜市水産加工”応援”海鮮BOX



地域おこし協力隊運營業務委託事業等

塩釜水産物仲卸市場では「後継者不足・来場者減少」などの課題解決に向けて、地域おこし協力隊制度を活用し、イベント開催やテナント誘致に取り組む隊員を募集した。また、空き盤台出店者へ補助金を交付し、新たな魅力と賑わい創出による仲卸市場の活性化につながった。

事業実績

- 塩釜市地域おこし協力隊運營業務委託受託者 協同組合 塩釜水産物仲卸市場
- 概要 地域おこし協力隊の募集等
- 仲卸市場空き盤台活用促進事業補助金新規出店事業者 飲食店3社



水産・水産加工業就職助成金等

慢性的な人手不足を解消するため、新規就労者を雇用した水産・水産加工業者へ就業助成金を交付し、従業員の定着が図られた。

また、外国人技能実習生等を事業所へ斡旋する監理団体へ就職斡旋助成金を交付し、実習生等の人材確保が図られた。

交付実績

- 水産・水産加工業就職助成金
水産・水産加工業者 17社 新規就労者 81名
- 水産・水産加工業就職斡旋助成金
市内監理団体 1団体 新規就労者 10名




「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 6)

分野	5	交 流	まちづくりの目標	何度でも訪れたいまち
			まちづくりの方向性	～ 観光交流による賑わいづくり ～

事業名	観 光 プ ロ モ ー シ ョ ン 事 業	担当部・課	産業建設部 商工観光課
-----	-----------------------	-------	----------------

施策体系	施策の柱	(第2節) 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大		
	施策名	2	戦略的なプロモーションの推進	

事業概要	取組の背景	効果的なプロモーションにより、継続的に本市の魅力を発信し観光ルートの定番化と観光消費額の拡大が必要である。		
	趣旨・目的	観光客入込数の増加と観光消費額の拡大により、産業として観光振興により地域活性化を図る。		
	実施概要	本市の魅力を様々な手段を通じ発信し、観光誘客につなげる。また、広域連携や自治体交流により効果的に情報発信を行う。	事業費	(千円) 10,141
	今年度の取組方針・目標値	コロナ禍により停滞した観光経済をコロナ禍前の水準まで回復を図る。		
	これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・動画広告の製作・放映 ・地域間交流による他自治体との連携・交流による他県での観光PR ・回遊性向上を図るための情報発信（各種まち歩きマップ制作、配布等） ・広域連携によるイベントでの情報発信 ・コロナ禍における観光誘客と地元事業者支援のためのクーポン発行事業 		
課題	継続的な情報発信 web広告など対象に合った効果的な情報発信			
次年度以降の展開の方向性（改善方法）	新たな地域との交流による塩竈の情報発信を拡大する。 SNS広告の復活によりターゲットを絞った効果的な情報発信を行う。			
関連する成果指標	観光客入込数	SDG s	-	
未来創生プロジェクト	-	横連携・好循環が期待される施策等	-	
関連する「塩竈らしい100の暮らし」		分野5：「食」をテーマにした祭りで近隣市町と交流する暮らし		

分野5：交流
何度でも
訪れたいまち



観光プロモーション事業

観光客入込数の推移

	鹽竈神社	マリゲート	仲卸市場	魚市場	みなと祭	海水浴場	合計
令和4年	879,000	752,900	70,332	15,246	119,700	1,147	1,838,325
令和元年	1,140,200	844,400	160,752	106,412	114,300	3,341	2,369,405
比較(人)	▲ 261,200	▲ 91,500	▲ 90,420	▲ 91,166	5,400	▲ 2,194	▲ 531,080
比較(率)	77.1%	89.2%	43.8%	14.3%	104.7%	34.3%	77.6%

地域間交流

ゆかりのある自治体へ訪問し観光PRや特産品の販売を行い、交流を深めた。

●実施状況

No.	場所	イベント名	日時	ゆかり
1	碧南市	元気ッス！へきなん	7月30日	平成24年災害協定
2	倉敷市	至極の逸品くらしきフェア	10月2日	震災対向支援
3	松島町	まつしま産業まつり	10月30日	近隣
4	村山市	ふるさと産業フェア	11月3日	平成19年災害協定
5	須坂市	うまいもん市	11月3日	平成24年災害協定
6	大垣市	秋の芭蕉祭	11月5～6日	奥の細道サミット
7	足利市	足利市マラソン大会	11月5～6日	



足利市マラソン大会



むらやまふるさと産業フェア

コロナ禍における観光プロモーション

「塩竈に寄ってけさいん」事業

概要

コロナ禍による市内観光事業者支援と地域経済回復のため、塩竈市及び松島町、仙台市秋保町の旅館・ホテル等の宿泊客に、本市の地酒と市内参加店で使用できるクーポン付パンフレットを配付することで、塩竈への誘客促進と観光消費拡大を図った。

実施期間

令和4年10月8日～令和5年2月28日

事業実績

協力宿泊施設 22施設(塩竈7 松島13 秋保2)
参加店舗数 66店舗
クーポン配布枚数 24,000枚



来て観て塩竈観光物産フェア

概要

仙台駅ガレリアでの観光物産フェアやマイナビ仙台での物販において2,000円以上お買上のお客様にクーポン配付を行った。

実施期間

ガレリア 令和4年11月19～20日

マイナビ 令和4年11月26日

事業実績

クーポン配布枚数 1,282枚
クーポン利用枚数 729枚
クーポン利用額 364,500円




「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 7)

分野	6 文化	まちづくりの目標	日常に彩りがあるまち
		まちづくりの方向性	～ 生涯にわたって学びあえる風土づくり ～

事業名	小中学校アートプロジェクト事業	担当部・課	教育部 教育総務課
-----	-----------------	-------	--------------

施策体系	施策の柱	(第3節) 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成	
	施策名	1	創造性豊かな人材育成への支援

事業の概要	取組の背景	市制施行80周年記念事業として第二小学校で実施した壁画アートが好評だったことから、他の小中学校でもアートプロジェクト事業を継続して実施するもの。		
	趣旨・目的	アート作品を制作する経験を通し、未来の芸術・文化を支える人材を育成するとともに、生徒の愛校精神やシビックプライドの醸成を図るもの。		
	実施概要	杉の入小学校の児童生徒92名が宮城県出身のアーティストの指導のもと、自分の思い出のある布を持ち寄り、ハサミでカットしたパーツを並べて横幅350cm、高さ188cmサイズの布地に「魚」や「鳥」を制作。	事業費	(千円) 1,000
	令和5年度の取組方針・目標値	開校150周年を迎える第一小学校の児童生徒とアーティストが共に未来の塩竈の風景をテーマにしたジオラマの共同制作に取り組む。		
これまでの取組状況	令和3年度 第二小学校で壁画アートを実施			
課題	制作にあたっては、授業の一環として技術家庭科の時間に実施したが、授業の枠を超えて取り組んだことから今後は十分な制作時間を確保する必要がある。			
令和5年度以降の展開の方向性(改善方法)	令和3年度80周年記念事業として第二小学校で実施した壁画アートから始まった本事業について、今後は全ての市内小中学校で実施する。			
関連する成果指標	—	SDGs	—	
未来創生プロジェクト	2.よこび実感プロジェクト	横連携・好循環が期待される施策等	—	
	—			
関連する「塩竈らしい100の暮らし」		分野6：土地の文化をアートで表現する暮らし		



小中学校アートプロジェクト事業

令和4年7月、杉の入小学校5学年の92名の児童たちは布貼り絵や刺繍で生き物を表現するアーティスト・しょうじこずえさんと共に、色とりどりの布を素材にした巨大な布貼り絵を共同制作をスタートした。児童は、各自布貼り絵を制作するために使用する布の観察をし、その布にまつわるエピソードやイメージをワークシートに記録。その後、布貼り絵の一部になる鳥や魚をかたどったパーツに布地を貼り合わせた。しょうじこずえさんと専門家の手が加わり、迫力のある大きな布貼り絵(幅 350cm x 高さ 188cm)を完成させた。



▲「思い出の布を観察しよう」各自持ち寄った布地を観察

▲「古布の鳥や魚をつくろう」分身となる布を貼り付けた鳥や魚を制作



▲専門家たちによる裁縫作業



▲アーティストが描く生き物とともに、92名の児童が制作した鳥と魚が大きな布地に貼り付けられ、大きな布貼り絵が完成

「第6次塩竈市長期総合計画」主要事業の実施概要

(NO. 8)

分野	7 協働	まちづくりの目標	みんなが主役になれるまち
		まちづくりの方向性	～さまざまな個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～

事業名	新婚さんいらっしやい事業	担当部・課	市民生活部 市民課
-----	--------------	-------	--------------

施策体系	施策の柱	(第2節) 大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進	
	施策名	2	性別に関わらずみんなが等しく活躍できる社会づくり

事業の概要	取組の背景	人口減少や若年層の減少といった課題に対し、「塩竈市に住んでよかった」と思えるまちを目指す取組として、令和3年度から実施してきたライフイベント記念事業を拡大し、令和4年度から結婚する市民へ結婚祝金の贈呈を開始したものの。		
	趣旨・目的	市民の皆様のご結婚をお祝いするとともに、新たに結婚するご夫妻の住まいとして塩竈市を選んでいただくため、一定の要件に該当し申請頂いた方へ結婚祝金を贈呈するもの。		
	実施概要	夫婦のいずれかが3か月以上塩竈市に住所があるなど、一定の要件に該当し、婚姻から6か月以内に申請した方へ、贈呈式を開催し、市長から結婚祝金5万円をお渡しするもの。	事業費	(千円) 7,150
	令和5年度の取組方針・目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知、贈呈式の参加者増加のため、定期的にSNS等を通じて情報を発信する。 ・アンケートを実施し、参加者の意見を聴取の上、より充実した事業を目指す。 		
これまでの取組状況	令和4年度の贈呈件数…143件（うち贈呈式参加…38組 51人） 令和4年度の主な取組 ①広報誌、市公式LINE、市HPにおいて事業概要や贈呈式の様子を発信した。 ②来庁された婚姻届提出者の方へ、事業をご案内し、申請を促した。 ③贈呈式を開催し、市長から直接結婚祝金を贈呈しお祝いをした。（令和4年度：13回）			
課題	(1)若い世代の方に移住・定住していただくため、効果的な制度の周知が必要である。 (2)仕事の都合等により、贈呈式にご出席いただけない新婚夫婦もいることから、贈呈式の実施日時の設定や案内方法について工夫を行う必要がある。			
令和5年度以降の展開の方向性（改善方法）	(1)関係各課との連携を図りながら、こんには赤ちゃん誕生お祝いギフト贈呈事業、塩竈市子育て・三世代同居近居住宅支援事業等の移住・定住を促進するための関係事業と合わせた案内を行うなど、効果的な制度の周知が必要である。 (2)贈呈式参加者が参加しやすくなる取組（休みが取りやすい日程の配慮等）を行う。			
関連する成果指標	—	SDGs	—	
未来創生プロジェクト	—	—	横連携・好循環が期待される施策等	・こんには赤ちゃん誕生お祝いギフト贈呈事業 ・塩竈市子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業
関連する「塩竈らしい100の暮らし」	—			

分野7：協働
みんなが主役にな
れるまち



新婚さんいらっしゃい事業

※ ライフイベント記念事業
令和3年度から実施

①塩竈市にて婚姻届を提出した方へ
5,000円分のすし券を贈呈
※令和3年度で終了

②オリジナルデザイン婚姻届の配布
③本庁舎玄関前のフオスペースでの
記念写真の撮影
④婚姻届の写しに、記念写真を入れて贈呈

継続

拡大

新婚さんいらっしゃい事業(祝金5万円)

1. 要件について

- (1)婚姻届が受理された日が令和4年4月1日以降であること。
- (2)夫婦の双方が1年以内にこの事業による結婚祝金の贈呈を受けていないこと。
- (3)夫婦のいずれか一方が婚姻日時時点で市内に住民登録がされており、かつ申請日時時点で住民登録期間が3か月以上であること、又は婚姻日から起算して1か月以内に夫婦のいずれか一方が市内に転入し、その日から3か月以上継続して住民登録していること。



2. 贈呈式について

毎月結婚祝金贈呈式を開催し、市長から直接新婚ご夫婦へ結婚祝金を贈呈。



贈呈式では、市長から結婚祝金をお渡します



広報誌にも贈呈式の様子を紹介しています



サプライズの祝砲(クラッカー)を鳴らす瞬間です
『ご結婚おめでとうございます!!』



職員一同による祝福の列です
お見送りは玄関まで続きます

<贈呈式にご出席いただいた方のご感想>

- ・結婚祝金をいただき、大変感謝しております。お祝い金をいただく際も職員の方からお祝いいただき嬉しかったです。
- ・市長から直接お祝い金をいただけると思わなかったので、とても感激しました。
- ・この取組を通じて塩竈に若い方が多く住める街になるよう継続いただけると塩竈市民として嬉しく思います。
- ・思いがけない支援でとても嬉しいです。塩竈に引越して8年になりますが、住みやすくとても好きな街になりました。

分野8：浦戸諸島
自然と調和した
和やかな暮らしと
癒しがあるしま



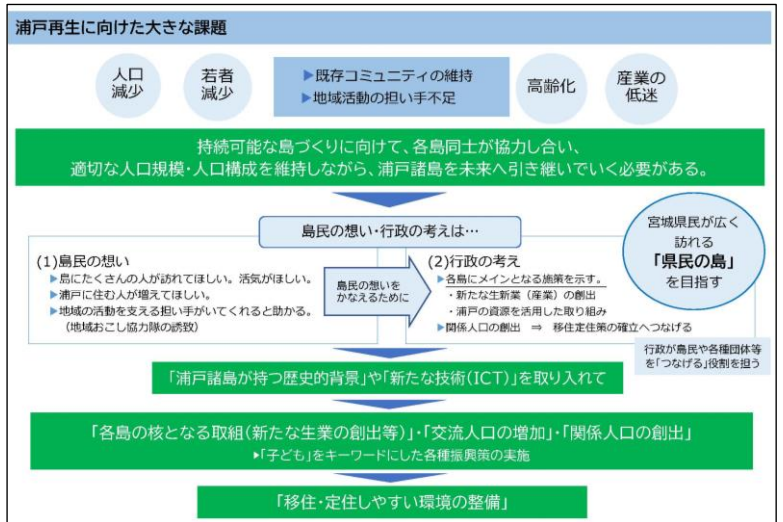
浦戸再生プロジェクト推進事業

事業概要

島民や関係者との連携のもと、新たな技術による課題解決を目指すとともに、地域活性化への機運向上を図るため、以下3つのプロジェクトを実施。

1. 今の暮らしを支えるプロジェクト
2. 島のポテンシャルを活かすプロジェクト
3. 法規制対策プロジェクト

浦戸再生に向けて大きな課題としてあげられている「人口減少・若者減少・高齢化の深刻化・産業の低迷」を解消するために、令和3年度に実施した「課題・ニーズへの取組」を着実に継続していくことに加え、浦戸諸島が持つ歴史的背景や新たな技術(ICT)を取り入れ、各島の核となる取組(新たな生業の創出等)や「移住・定住しやすい環境の整備」を実施する。



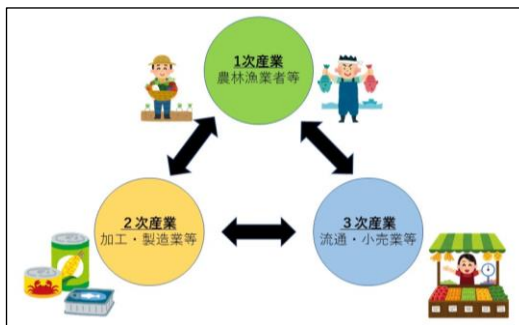
令和4年度の取組み

浦戸諸島ホームページのリニューアル
浦戸諸島の認知度を上げ、関係・交流人口の増加を図るため、ホームページのリニューアルをおこなった。



リニューアル後の浦戸諸島ホームページ

地域おこし協力隊の募集(令和5年度継続)
6次産業化などの新たなビジネス創出スキルやアイデアを持ち、同時に魅力を発信できる人材を「地域おこし協力隊」として募集した。



島民との意見交換会(令和5年度継続)
離島課題解決に向け、島の若手を中心とした意見交換を実施し、ICT等を活用した課題解決の方向性を議論した。



意見交換会の様子

令和5年度の取組み

防災集団移転跡地の利活用検討
桂島と寒風沢島にある防災集団移転跡地の利活用について検討する。



桂島防災集団移転跡地

離島課題解決のためのICT技術導入検討
浦戸諸島が抱える課題解決のため、ICTなどの新技術の実装、推進を検討する。



長井市伊佐沢スマートストアの視察

浦戸観光客用駐車場トライアル事業
浦戸観光客の負担軽減と快適性・利便性の向上のために、宮城県所有の港湾用地を活用した駐車場トライアル事業を実施。



駐車場予定地(県所有の港湾用地)